

## お知らせ

本教会へ初めて来られた方々を  
心から歓迎いたします。

「毎月最初の主日には聖餐式を行います。」

今月の聖餐式は 16 日の収穫感謝主日に行われます。

### 教会の働き

- 今日、主日夕方賛美礼拝の後教会運営会議があります。関係者は今週中資料を提出して下さい。
- 11 月 6-7 日 聖契神学校のスクーリングに参加します。又、7 日には東京福音教会で行う復興に本セミナーにも参加します。
- 11 月 23 日(日)本場キムチバザー&コンサートが行われます。主日礼拝は チャン・トンオク牧師が御言葉を取り次いでくださいます。礼拝後 午後 2 時から バザーとコンサートを行います。チラシとポスターが印刷されます。どうぞ、隣人やご家庭での広報・伝道のためにご活用ください。地域の方々に主の愛と喜びが伝わるように、一枚一枚のチラシが福音の種として用いられることを祈ります。

聖徒の為に祈りましょう。

- ・ コロナとインフルエンザから守られますように。
- ・ 施設に入られている方々の生活が守られる為に。
- ・ YouTube ライブで、礼拝している教会と聖徒の皆さんの為に。(大阪ホームチャーチ、相模原の佐々木こずえ執事の家庭など)



「人生の矛盾を越えて、  
まことの幸いへ」

詩編 73 篇(1-28 節)

1 まことに神はいつくしみ深い。

イスラエルに心の清らかな人たちに。2 けれどもこの私は足がつかずきそう私の歩みは滑りかけた。3 それは私が悪しき者が栄えるのを見て誇り高ぶる者をねたんだからだ。…17 ついに私は神の聖所に入って彼らの最期を悟った。…25 あなたのほかに天では私にだれがいるでしょう。地では私はだれをも望みません。…28 しかし私にとって神のみそばにすることが幸せです。私は【神】である主を私の避け所としあなたのすべてのみわざを語り告げます。

### 来週礼拝奉仕者

主日礼拝 柳澄香(賛美リーダー) 北原明子(祈禱)

夕方賛美礼拝 柳澄香(賛美リーダー) 平澤寿子(祈禱)

水曜礼拝 北原孝子(司会) 柳澄香(祈禱)

### 礼拝時間案内

主日礼拝	AM 11:00
夕方賛美礼拝	PM 2:30
教会学校(小学生まで)	AM 9:50~10:30
水曜礼拝	PM 7:00
祈禱会・火・木曜日	PM 8:30~9:30
土曜日	PM 8:00~9:00

週報 2025-44 号

2025.11.2

神の国とその義を  
第一に求める

宗教法人 イエス・キリスト

## 飯田福音教会



395-0807 飯田市鼎切石 3883-4

TEL 0265-56-8286

www.iidahc.com

牧 師 柳 承吉(ヤナギ ショウキチ)

副牧師 柳 智愛(ヤナギ チエ)

<b>主日礼拝</b>		<b>AM 11:00～</b>
	賛美リード	韓芽唯
信仰告白	(使徒信条)	
代表祈禱	高木はつえ	
特別賛美	インマヌエル聖歌隊 エンゼルチーム	
聖書箇所	詩編 73 篇 (1-28 節) (人生の矛盾を越えて、まことの幸いへ)	
メッセージ	柳承吉牧師	
賛美	神の家族	
祝 禱	柳承吉牧師	

夕方賛美礼拝		PM 2:30～
	賛美リード	韓芽唯
代表祈禱	松島スヤンティ	
聖書箇所	ローマ書 6:6-7 (罪の奴隷ではない。2)	
メッセージ	柳 承吉牧師	
主の祈り		

水曜礼拝		PM 7:00～
司 会	高木はつえ	
代表祈禱	北原孝子	
聖書箇所	ローマ書 8:1-4	
メッセージ	ローマ書 8 章の概略(1)	柳承吉牧師
主の祈り		

<b>今週の御言葉</b>	
人生の矛盾を越えて、まことの幸いへ	
詩編 73 篇 (1-28 節)	
「矛盾」とは、物事の前後が一致しないこと、相反する二つが同居することです。私たちの世界と日常は、矛盾でいっぱいです。ある作家は「人は生まれた瞬間から死に向かう」と言いました。生と死が同居するのが人生。	
私たちの心にも矛盾が潜みます。「誰かと近づきたい、でも離れたい。共にいたい、でも一人でいたい。働きたい、でも自由でいたい。完璧でありたい、でも怠けたい……」。しかし矛盾は必ずしも悪ではありません。	
筋力トレーニングは「作用」と「反作用」のせめぎ合いが、むしろ成長という“逆説的”結果を生みます。人生も同じ。相反するものの衝突と交錯の中で、私たちは成長し成熟していきます。	
詩編 73 篇の作者アサフは、まさにこの「人生の矛盾」に直面しました。彼はダビデ・ソロモン期に仕えた著名な賛美の歌い手、歌と預言的務めを担った霊的リーダーでした。そのアサフが、信仰を根底から揺さぶる矛盾を経験し、正直に告白します。	
1) 矛盾—悪しき者の繁栄と義なる者の苦難(1-14 節)	
アサフは真理を知っていました。「まことに、神はイスラエルに、心のきよい者たちに、いつくしみ深い。」(1)	
しかし現実はいよいよ逆に見える、ここに矛盾があります。彼は告白します。「けれども、この私は、足がつかずきそう、私の歩みは滑りかけた。それは、私が悪しき者の栄えるのを見て、誇り高ぶる者をねたんだからだ。」(2-3)	
悪しき者は平安で、病にも悩まされず、富は増し、言葉は	

傲慢(7-9)。「どうして神が知るだろうか。」(11)と、神をも侮る。にもかかわらず「彼らはいつまでも安らかで、富を増している。」(12)一方で、神を恐れ、良心に敏感に生きる者は打たれ、しばしば損をする。アサフは「神の公義はどこにあるのか」「事必帰正は本当か」と心動かされ、信仰の足が滑りかけたのです。
2) 矛盾を越える道—聖所へ、神の前へ(15-20 節)
アサフは軽率に語り、世代をつまづかせることを避け(15)、自力で理解しようと苦闘しました(16)。しかし解は見つからない。「ついに私は神の聖所に入り、彼らの終わりを悟った。」(17) 鍵は「場所の転換」です。現実の只中から、神の臨在の只中へ。そこで彼は、悪しき者の繁栄が“足もとが滑る場所”(18)、突如として滅びる“夢まぼろし”(19-20)にすぎないことを悟ります。
試みに勝つ道は、世を見つめる視線を、神を見る視線へと戻すこと。聖所(礼拝・祈り・御言葉)に身を置くと、永遠の光に照らされ、現実の“真の輪郭”が見えてきます。
3) 矛盾を越えて「真の幸い」へ(21-28 節)
視点が神に戻ると、心の鈍さと苦味を悔い(21-22)、神の御手と導きを再発見します。…「しかし私にとって、神のみそばにすることが幸せです。…」(28)
世がうらやましく見えるとき—聖所へ。
不安・孤独・将来の不確かさに襲われるとき—主のもとへ。
目を世から主へ。時間を雑音から御言葉へ。場所を喧騒から礼拝へ。
もう一歩、神に近づきましょう。主が備えておられる「真の幸い」に生きるために。